



赤ちゃんの「つめ」や「かみの毛」は、どうやってできるの

はじめは1個の細胞から

赤ちゃんの命は、お父さんの体の中にある、精子という細胞と、お母さんの体の中にある、卵子という細胞がいっしょになって、1個の細胞になったときに始まります。人間の命の始まりは、この1個の小さな細胞なのです。

この1個の小さな細胞が、お母さんのおなかの中で、二つに分かれ、その二つが、それぞれ二つに分かれということを、数えきれないくらい、くり返して増えていき、体のいろいろな部分をつくりながら、だんだん、赤ちゃんらしくなっていくのです。

わたしたちの体をつくっている細胞の数は、全部で60兆もあるといわれていますが、筋肉も骨も、内臓も、もちろん、「かみの毛」も、この細胞でできているのです。

「つめ」や「かみの毛」ができるのは

人間の命の始まりは、お母さんのおなかの中にある、1個の小さな細胞ですから、そのときのおなかの中の赤ちゃんには、もちろん「つめ」や「かみの毛」はありません。

1個の小さな細胞が増えていき、赤ちゃんらしい姿になるのは、命の始まりから、9週間くらいたってからで、そのころから、赤ちゃんはたい児とよばれます。

そして、10週めくらいからは、手の「つめ」ができはじめ、少しおくれて、足の「つめ」ができはじめて、36週めごろには、指の先まで「つめ」がのびてきます。

「かみの毛」は、「つめ」よりおそく、38週めごろに生えます。

このように、人間の場合、1個の小さな細胞が増えていき、9か月ほどで、約3キログラムの赤ちゃんにまで成長し、生まれてくるのです。（監修・保志 宏）

